

平成 29 年度自己評価シート(中間評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	高坂 学	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

学校経営目標					
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等	
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる。					
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	(1)授業のユニバーサルデザイン化を図り、達成感、充実感の味わえる教材や授業づくりを行う。 (2)構造化を図り、学習環境を整備する。 (3)特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。 (4)校内及び公開授業研究会を実施する。 (5)振り返りシートによる授業評価を実施し、成果や課題を共有する。	B	1学期時点において、振り返りシートによる授業満足度は79%で、目標値を越えている。 校内授業研究会を実施し、教職員アンケートで高評価を得た。 授業評価について、成果や課題の共有化についてはこれからである。	教務部	
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	(1)体験学習の目標や意義を生徒に明確に伝える。 (2)協働的な活動に取り組む中で、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル等を育てる。 (3)体験文としてまとめ、振り返りを行う。	B	自然体験学習として、大豆づくりを計画し、現在実施中である。	教務部	
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1)家庭訪問・関係機関との連携で得た支援の状況や課題をケース会議や特別支援教育推進会議・教職員研修会で共有する。 (2)合理的配慮(授業におけるナチュラルサポート)の深化に向け、教職員各々が生徒の個別のアセスメント、指導計画を作成し、組織的に共有し、活用する。	B	教育的な支援が必要な生徒の中の90%の生徒については、保護者・関係機関と積極的に連携を取り、必要に応じてケース会議や担任と情報を共有している。 特別支援教育の教職員研修会を開き、97%の肯定的評価を得た。 夏季休業中に教育的な支援を視野に入れた補充授業を実施した。	教育支援	

【評価結果の分析】

- 教育的な支援の観点に立った授業については共通認識されてきており、各教科における教材作成や授業展開、試験問題、発問や言葉がけ等の工夫・改善の積み重ねが一定の評価となって表れている。
- 校内授業研究会では、授業の準備、プレゼンテーションソフトによる視覚的な提示、グループワークでのクループ分け、役割分担、各グループへの言葉がけ等、工夫や効果を感じられた点について意見が出され(アンケート含む)、協議を深めることができた。
- 教育的な支援が必要な生徒への関係機関との連携、教職員研修会、夏季休業中の補充を実施し可能な限り教職員で組織的な教育内容の構築に向け取り組みを模索してきた。

【今後の改善方策】

- 授業満足度については一定の評価が見られるが、個の生徒に視点をあてたとき、どのような支援が必要か、また、生徒の主体的な学習につながっているか、達成感・充実感が得られるものになっているかという視点を持つことが課題である。
- 授業研究会(校内・公開)について、その意義を共通認識し継続して実施する。また、非常勤講師を含めた全教職員による参加体制については、今後課題として考えていく必要がある。
- 2学期は振り返りシートについての活用方法や、成果や課題の共有化の方法について、部内で意見交換する場を設ける必要がある。
- 日常の授業と同じように、全ての校内活動の中に教育的な支援の視点が盛り込まれ、組織的な活動を行う必要がある。そのためには、日常の生徒の変化を読み取り、その読み取った情報を共有し、機敏に対処する教職員の指導力の向上が、今後の課題である。

2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。				
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	(1) 集団における学習を通して、様々な物の見方や考え方に触れ、ありのままの自分を受け入れ(自己受容)、自己肯定感を高めさせる取り組みを行う。 (2) 自分の考えをまとめ、自分の言葉で工夫して表現しようとする主体的な態度・意欲・積極性を身に付けさせる。	B	(1)「キャリア教育ワークシート」の実施率が84%であり、生徒が自分の全体像の把握に努めている。 (2)生活体験文については、今後、文化祭実施にあわせて取り組む。	進路指導部
社会的・職業的な自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	(1) 家庭訪問・地域の企業訪問・職業安定所・就労支援関係事業所・生徒の職場との連携を深める。 (2) 社会参加を基盤として、自らの人生と将来を展望し、社会的・職業的な自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	B	(1)看護体験学習、ジョブシャドウイングからインターンシップに参加した生徒の感想から。 (1)新たなジョブシャドウ・インターンシップの受け入れ先を開拓した。 (2)十分に達成できていない。	進路指導部

【評価結果の分析】

○生徒一人一人の合理的配慮を考えるうえで、「困難性がおきないための支援」をするために作成した「学校生活改善調査」の実施率は84%で、多くの生徒が自分を見つめなおす作業が可能になった。

○キャリア教育において、看護体験学習への参加、ジョブシャドウイングからインターンシップの取り組みにより、参加したすべての生徒が充実感や達成感を感じ、次の行動に向けての意欲につながっている。

【今後の改善方策】

○「キャリア教育ガイダンス」「キャリア講演会」「生活体験文の記録」が、自己肯定感を高めるものになるように改訂する。

○担任が他の教職員や分掌と連携を図り、生徒個々の状況を把握し、保護者や関係機関とも協力して生徒の進路目標である『自立』や『社会参加』などを実現していくために、教職員が柔軟な発想をもち、肯定的な言葉がけなどの具体的な取組や対応を考えていく。

3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。				
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	(1)ルール・マナーを常に掲示し、全教職員が同一歩調で指導する体制を構築する。 (2)校内巡回(授業開始10分間の巡視等)や登下校時の校外巡回等継続的に実施する。 (3)日常的な教育的配慮による声かけを行う。 (4)生徒全員の課題を全教職員で共有し、協力連携して指導に当たる体制を確立する。	B	全職員でローテーション表を作成し、校外巡回を継続的に行った。 昼礼・夕礼の後に毎日連絡会を開き、生徒に対する課題を共有し、連携して指導に当たるよう心がけてきた。	生徒指導部
生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会の伝統を継承するだけでなく生徒会活動への新しいアイデアや発想の導入を奨励し、その活性化を図ると共に連帯意識を高める。 (1)生徒が主体的・自発的に各種生徒会行事の企画・運営等を行うことを通して、主体性やリーダーシップを養わせる。 (2)生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組みさせ、社会人としての責任を認識させる。	B	生徒の意見を取り入れる場を設けて、その意見を教育活動に取り入れた。 校外活動や地域貢献活動に、生徒を積極的に参加させた。	生徒指導部
自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	生徒一人一人の特性を認め合い、自己肯定感を得られる授業作り、集団作り、学校作りを学校全体で行っていく。 (1)いじめ防止委員会を中心とした学校安全体制を機能化させる。 (2)各教科・HR活動等で、人権教育を推進していく。	B	7月末に生徒・保護者を対象とした、第1回学校生活改善アンケートの結果から。	総務保健部

【評価結果の分析】

- 今年度に入ってから現在までの休学者は2名である。
- 玄関前及び校門周辺での巡回を毎日行っている。下校時の校外巡回も毎日行っている。
- 生徒からの要望をきっかけとして、生徒会規約の一部改正を行った。
- 校外清掃ボランティアの参加率は25%であり、遠足は50%、合同運動会は39%の参加率であった。
- 地域貢献活動として生徒会が中心となりグローバルスクールへ参加した。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」生徒集約では、「学校に行くのは楽しいですか」の質問に、「楽しい」が18.9%、「まあまあ楽しい」が45.9%の結果であり、64.8%の生徒が肯定的に考えている。また、保護者集約では、「学校に子どもを安心して通わせることができるか」の質問に、「安心できる」が48.8%、「大体安心できる」が47.1%で、肯定的にとらえている保護者が95.9%であった。

【今後の改善方策】

- 授業中の巡回指導を行い、不安定な状況の学校生活である生徒に声かけを行い、問題行動として現象化することを未然防止に努める。
- 生徒指導体制の機能化を図り組織的に早期対応が出来るシステムを具体化する。
- ボランティア活動に参加する生徒を増やす。
- 生徒の安心・安全度の指標となる数値が分かるように、アンケートの文言を変更していく。
- 生徒が、安心して登校できる安全で信頼される学校づくりに向け、特別支援教育の視点に立った生徒指導や授業改善などを推進する。
- 第1回の「学校生活改善アンケート」の保護者の提出率が94.6%で、昨年度の第1回と比べて向上した。これは夏休み中の懇談などを利用した結果であるが、12月に実施する、第2回目も、提出率が下がらないように保護者連携等を更に深める。

4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。				
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	(1)リアルタイムの更新に努め、学校情報を的確に発信し、家庭、地域、関係機関からの理解を得る。 (2)ホームページ担当者の育成に努める。 (3)簡潔明瞭で容易に理解できるホームページを作成する。 (4)メール配信システムへの登録を促す。	B	ホームページの更新や改善は予定通り行われている。 現在の担当者に負担がかかっており、育成が十分になされていない。	総務 保健部
家庭、地域、関係機関との連携を深め、生徒の自立心を育成する。	(1)家庭、地域、関係機関との連携の在り方を考える。 (2)生徒が連携の内容を自主的に考える 取組を行う。 (3)学校行事の活性化を図る。	B	(1)担任・分掌・学校として連携の在り方を常に考えている。 (2)成果が十分にあがっていない (3)分掌を中心によく検討し、活性化が図られている。	全分掌

【評価結果の分析】

- ホームページの更新回数は28回となっており、できるだけ素早く更新に努めて情報を発信している。
- メール配信システムについては、53%の生徒が登録、37.8%の保護者が登録をしている。
- 分掌が組織的に機能し、会議の中で学校行事が立案され、行事の活性化が行われている。

【今後の改善方策】

- 既存のホームページに改良・修正の余地がないかを点検し、ホームページの内容を各分掌で分担して作成するなどが今後の課題である。
- ホームページに掲載する学校PRを、全職員が意見を出し合って作成する。
- ホームページ担当者の育成と共に、誰もが操作できるホームページを作成する。
- 生徒指導部(生徒会係)が中心となって、生徒が発言する場を設け、そこで出された意見を実現できるようなシステムを構築する。
- 生徒が経験値を高め、地域に貢献できるような学校行事を考えていく。